

智恵を結集して

校長 武井 正明

先週末の夜は、今年度で3回目になる学校運営協議会であった。

どうしても開催が夜になってしまう。学校や地域のために、とお力を貸してくださる協議員の皆様には頭が下がる。

進行は CS 事務員の斎藤哲也コーディネーター。ご存じ、前吉田中学校長。私の大先輩だ。いつも円滑に会を進行してくださっている。

学校の担当は立海主幹教諭。様々な角度から構想を練り、今日は「この地域でどんな子どもたちを育てたいか」という議題で「熟議と協働」を2グループで行った。

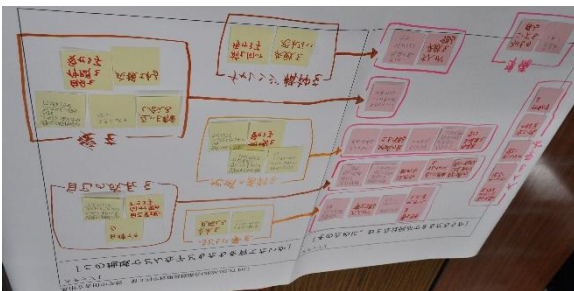
吉田地区まちづくり協議会の竹内末三会長は、吉田地区の重鎮。誠実、丁寧なお人柄。吉田地区のためなら、どんな労も厭わない。ご経験を踏まえて、貴重なご意見を下さる。



渡辺淳 前学校評議員は私の大先輩。教諭、管理職の豊富なご経験から、今後の放課後の子どもたちの活動の場に、いかに地域の指導者が数多く関わるには、という組織作りを探っておられる。

滝本勝則 地域コーディネーターは、アメリカの視察からお帰りになったばかり。「やはりアメリカの人たちの、めいっぱい働いて、その分めいっぱいリフレッシュする、あのオンとオフのメリハリ。これは日本人が学ばなければいけないことだと思います」と仰っていた。マイアミ始め各地を精力的に廻ってこられた。その識見も、学校運営に活かされてくる。

吉田南地区協議会の金子良一会長は、子どもたちの活動の受け皿はしっかりと大人たちが作ってやらないと、と建設的なご意見を仰っていた。



再来年、吉田中学校は創立80周年を迎える。もはやアドバルーン的な打ち上げ花火を、というような時代ではなかろう。

限られた資金や人材で、この節目の年、吉中生たちのために、地域のためにできる有効な何かを、これからもじっくりと模索していきたい。